

第22回中学生国際交流事業

コンピエーニュ市で大きく成長

国際交流事業。派遣生たちはこの事業を通して、とても貴重な経験をしました。派遣生が見てきたもの、感じたこと、その一部を紹介します。

■中学生国際交流事業派遣生

- 阿字杏佳さん (大信中)
 - 荒井莉奈さん (東北中)
 - 大野みのりさん (中央中)
 - 兼子美香さん (東北中)
 - 菅野由佳さん (白二中)
 - 小磯有紗さん (大信中)
 - 小磯太一さん (中央中)
 - 坂本陽美さん (五箇中)
 - 佐川舞さん (五箇中)
 - 佐藤恵里奈さん (表郷中)
 - 島田歩実さん (白二中)
 - 鈴木智尋さん (東北中)
 - 高橋俊輔さん (表郷中)
 - 内藤美桜さん (中央中)
 - 根本奈々さん (白二中)
 - 矢内良依さん (中央中)
 - 山本彩夏さん (中央中)
 - 吉田圭佑さん (白二中)
- 団長 大橋あつ子さん 市国際交流協会理事

6月16日 研修会

出発に向け、計4回の研修を行い準備を重ねた派遣生たち。この日は来日中のコンピエーニュのフランソワ副市長と初めて会いました。



7月27日 出発式

午前3時30分(市役所1階ロビー)。緊張した面持ちで18人が集合。保護者や市国際交流協会の役員に見送られ、出発しました。



7月27日(1日目)～8月2日 フランスでの生活

7月28日。午後5時30分(コンピエーニュ市役所中庭で記念撮影)。

※2日目以降は、8・9ページで紹介します。



8月2日(7日目) 帰国。市役所到着

午後4時(市民会館駐車場)。市長、保護者、市国際交流協会の役員の「おかえり」に、元気よく「ただいま」と答えた派遣生たち。フランスが涼しかったため、白河がとても暑く感じました。



8月22日 帰国報告会

午後7時(市役所正庁)。派遣生とその保護者が参加して、フランスでの感想を発表しました。

派遣生からは、ホームステイ先のホストファミリーとの体験、フランスの歴史、芸術、授業で習ったものを自分の目で見る事ができた喜びなどの感想と「今後の勉強や進路へこの体験を生かしたい」といった抱負が聞かれました。

また、保護者からの感想では、苦手だった英語の勉強を自ら行う、忘れ物をしなくなったなど、子どもの成長を実感したとの声が聞かれました。



■中学生国際交流事業とは？

中学生国際交流事業は、中学生が異国の文化や社会、自然環境などに直接触れる体験と、見聞を広げる機会を提供し、国際化社会で活躍できる人材の育成を目的としています。

この事業は、平成元年から実施し、これまでに約400人が参加しています。毎年計画していますが、諸事情により中止する場合もあり、これまで

で3回中止となっています。

今回は、3月下旬に予定していましたが、東日本大震災が発生したため、一時中止となりました。

再開を希望する声が生徒や保護者からあがり、7月27日から8月2日まで、18人の生徒が姉妹都市であるフランスのコンピエーニュ市などを訪問しました。

フランス
コンピエーニュ

本市と姉妹都市を締結しているフランスのコンピエーニュ市は、パリから約80km北東に位置するピカルディ州オワーズ県の副県庁所在地で、人口は約45,000人の中規模都市です。

シャルル・ド・ゴール空港に近く、高速道路など交通の便に恵まれ、パリにも近いため、製菓、食品、自動車部品工場などが数多く点在しています。市内にあるコンピエーニュ工科大学は、フランス国内でも高いレベルの大学として知られており、日本からの留学生もいます。

コンピエーニュ市は、本市と同じく歴史

の街です。ローマ時代に宿駅が置かれてから、パリと北フランスを結ぶ交通の要衝として発達しました。市の周辺が狩猟に適した森に囲まれているため、王や皇帝が居城を構える地でもありました。現存するコンピエーニュ宮殿は、フランス革命時に荒れ果ててしまいましたが、1809年からナポレオン1世が修復し、ナポレオン3世の治世になると、皇帝の秋の宮殿としてもっとも華やかな時代を迎えました。

また、コンピエーニュは、イギリスとの百年戦争中、劣勢のフランスを勝利に導いたジャンヌ・ダルクが捕らえられた地としても有名です。



▲コンピエーニュ市章



◎ パリ
★ コンピエーニュ



▲コンピエーニュ市役所

8月1日(6日目)
別れ、帰国

3日間の楽しかったホームステイも今日で終了。ホストファミリーとの別れを惜しみ、涙。
空港に戻る途中で、シャンティ城を見学。

▼ホストファミリーとの別れ



▲シャンティ城

7月31日(5日目)
ホストファミリーと茶会

午後は全てのホストファミリーが集まり茶会。浴衣などの和服に着替える。ホストファミリーへのお礼を込め、日本で流行の「マルモリ体操」を披露。

▼ホストファミリー宅で日本食を作る



▲フランソワ副市長

7月30日(4日目)
ホストファミリーと終日

ホストファミリーに案内されコンピエーニュ市内を観光。ショッピング等をして過ごす。

▼ホストファミリーとピエールフォン城で



▲和服に着替えての茶会

7月29日(3日目)
ホストファミリーと対面

パリ2日目はヴェルサイユ宮殿を見学。広大な庭園を見学後、マリーアントワネットが生活した宮殿内部を見学。
夕方はいよいよコンピエーニュへ。コンピエーニュ市役所でホストファミリーと対面。3日間のホームステイが始まる。

▼ヴェルサイユ講和条約が調印された場所でもある「鏡の間」



▲ホストファミリーと対面



▲コンピエーニュ市議会議場



7月28日(2日目)
パリ市内を見学

パリ市内を地下鉄で移動、午前中はルーブル美術館を見学。教科書で見た絵画など、歴史的な芸術品の数々が並び、実物に感動。
午後からはセーヌ川からエッフェル塔を眺め、パリに来たことを実感。地下鉄車内でスリと遭遇、被害がなく一安心。

▼ルーブル美術館内



▼パリ市内の地下鉄乗り場へ



▲ルーブル美術館前



▲セーヌ川から見るエッフェル塔

COMPIEGNE
Des jeunes Japonais en visite

Le comité de jumelage Compiègne-Shirakawa accueille 18 jeunes Japonais, âgés de 14 ans et leurs trois accompagnateurs. Rencontre.



Arrivé mercredi dernier à Paris, tout le groupe a commencé un périple dans la capitale par les visites traditionnelles du Palais de Versailles, des musées du Louvre et d'Orsay et par une promenade en bateau mouche. Le décalage horaire « anal », ils ont ensuite été accueillis et répartis dans les familles de leur ville jumelle.

« Nous leur ferons découvrir une partie de notre patrimoine local »

meine local en allant notamment à Pierrefonds ».

C'est la huitième fois que Vincent Roussel reçoit un jeune Japonais

▲現地の新聞

震災後初めての白河からのコンピエーニュ訪問となったためか、地元メディアの関心が高く、現地の新聞に取り上げられました。また、テレビニュースでも数分に渡り、派遣生の様子が紹介されました。

■コンピエーニュ市、アリエル・フランソワ副市長からのコメント

白河から18人の派遣生を迎え、ホームステイを実施することができて、とても嬉しいです。この子たちが成長し、コンピエーニュと白河の友好の架け橋になってくれることを望みます。

■ホストファミリーからのコメント

派遣生とは、日本のマンガの話で盛り上がりたり、ゲームなどをして楽しく過ごすことができました。今後も、メールなどで交際を続け、またいつか訪れてくれることを期待します。

8月2日	8月1日	7月31日	7月30日	7月29日	7月28日	7月27日	
●午後4時 市役所到着	●午後1時 成田空港へ向け離陸(ミユンヘン空港経由) ※所要時間 14時間	●終日 コンピエーニュ滞在 コンピエーニュ宮殿、公園散策	●終日 ホストファミリーと過ごす 市内観光、ショッピングなど	●午後6時 コンピエーニュ市役所到着 ホストファミリーと対面 (ホームステイ開始)	●午前9時30分 オルセー美術館見学 ●午後2時30分 ヴェルサイユ宮殿見学	●終日 パリ市内見学	●午前3時45分 市役所出発(成田空港へ) ●午前9時30分 パリへ向け離陸(フランクフルト空港経由) ※所要時間 13時間 (現地時間)